

Overview of the Obuchi Okinawa Education and Research Program

小渕沖繩教育研究プログラムの概要

小渕沖繩教育研究プログラムは、2000年の主要国首脳会議(九州・沖縄サミット)を契機に、沖縄の将来を担う国際的な人材育成を支援する日米両政府の合意に基づく共同プログラムとして設立され、これまでに県内から49名の大学生、研究者等がハワイ大学大学院や東西センターに派遣されている。

本プログラムには次のものが含まれる

■小渕東西センター奨学制度

○小渕東西センタースカラシップ

沖縄の若い大学院生等を対象に、東西センターをとおして、産業、経済、学術、文化、教育等の各分野において、ハワイ大学大学院へ留学する機会を提供する。

○小渕アジア・太平洋地域リーダーシッププログラム

沖縄の若い大学院生や社会人等を対象に、政治、経済、学術、教育等の各分野におけるリーダーシップ技術を修得するため、東西センターのアジア・太平洋地域リーダーシッププログラムに参加し、ハワイ大学大学院での専門的能力開発セミナー等を履修する機会を提供する。

■小渕国際交流基金フェローシップ

沖縄の研究者や実務者等を対象に、地球規模の問題やアジア・太平洋地域に共通する課題、沖縄とハワイの協力拡大に資するテーマ等について研究する機会を提供する。

Purpose of the Ceremony

開催趣旨

小渕教育沖縄研究プログラムのうち、日本側の小渕国際交流基金フェローシップについては、昨年11月に事業の見直しを行い、今年から新たな知的交流事業として展開される予定である。

また、米国側の小渕東西センター奨学制度についても、設立当初とは留学環境も著しく変化していることから、これまでの成果を総括し、今後の事業展開を考える機会をもつ必要がある。

このようなことから、このプログラム設立当初からの意義を見直し、今後の展望を考える契機とするため、記念式典等を開催する。

県内外の関係者に対し、このプログラムが担う県内の人材育成や沖縄とハワイの交流について関心を深めてもらうとともに、プログラムの設立及び運営に努められた関係者の御尽力に感謝し、プログラムの継続・発展に寄与する。



Background

背景

1960年から1972年までの期間に、沖縄から東西センターへ研究・研修に参加した人材は2,500人を超える。

小渕沖繩教育研究プログラムは、この実績をもとに、沖縄の本土復帰以降、途絶えていた東西センターにおける有意義な教育、研究、知的交流活動を再開することを目的としている。

東西センター及び東西センター沖縄同窓会が、このプログラムを提唱した結果、2000年7月の九州・沖縄サミットで米国大統領ビル・クリントンによってこのプログラムの創設が正式に発表された。

クリントン大統領は、沖縄に関心の深かった故小渕恵三首相にこのプログラムを捧げ、「小渕沖繩教育研究プログラム」と名付けられた。

小渕沖繩教育研究プログラムは、日米関係及び地域の平和と安全保障における沖縄の重要な役割を認めた日米両政府による共同プログラムである。

沖縄が、アジア・太平洋地域の知的活動、研究及びビジネスにおいて、より積極的な役割を果たすにあたり、必要となる人材育成を目的としている。

